

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1273600377		
法人名	社会福祉法人北斗泰山会		
事業所名	グループホームあいや		
所在地	千葉県印西市草深1132-8 (電話) 0476-48-5780		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年5月10日	評価確定日	6月3日

【情報提供票より】(19年4月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤5人, 非常勤12人, 常勤換算12.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円	有りの場合 償却の有無	有り	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(4月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	3 名	要介護2	7 名			
要介護3	3 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉ニュータウンクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北総鉄道・千葉ニュータウン中央駅から徒歩20分。高層マンションが立ち並ぶ新興住宅地と古からの住民が混在する土地柄の中で、少しずつ地域に根ざし始めているフレッシュなホームである。大きな窓から明るい日差しが差し込む広々としたホームの中では、入居者が食事作り、趣味の活動などを通じて生き生きと過ごしている様子が見受けられた。同ホームは近隣の介護老人保健施設シルバーヴィラ大森や千葉ニュータウンクリニックと協力関係にあり、医療面において心強いのが特徴だ。これからが大いに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	共用空間において、個々にくつろげる場所が少ないという指摘に対しては、中庭にテーブルセットを設置した。食器が一律であるという点については、マグカップを個別のものにしている。地域との連携については、昨年に引き続き、交流を深めるための努力を続けているところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で全職員の意見を聞き、それをもとに管理者が自己評価表を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年3月に1回目を実施。地域の民生委員、自治会長、印西市役所職員、入居者および家族の代表らに対し、ホームの活動説明や施設見学を行った。地域交流についてはあまり行っていない現状であるため、民生委員や自治会長に、ホームと地域との交流や連携を呼びかけ、話し合う機会となった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会に来る家族とは情報交換している。また必要があれば随時家族に電話連絡をする。しかしながら、年4回発行のホーム新聞送付以外に家族への情報提供の機会があまりなく、意見・要望等のくみ取りも、ホーム側からは特に働きかけを行っていない状況である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	新興住宅地・千葉ニュータウンと、古から居住する住民との狭間で、地域連携や交流のあり方を模索しているところである。ホームの隣にコンビニエンスストアや食堂があり、そこには入居者がしばしば行き来している。今後は、小学校や幼稚園との交流を検討している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方達とふれあいを持ちながら、家庭的な雰囲気の中で自立した生活ができるようにお手伝いする」をホームの理念としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームが入居者にとって第二の家となるよう、管理者・職員ともども日々励んでいる。入居者が職員に何でも話せるような関係作り、入居者主体の自立した生活の実現を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で、民生委員や自治会長に、ホームと地域との連携を呼びかけたが、具体的な交流活動の実現には至っていない。近隣の小学校や幼稚園との交流を検討している。		今後も引続き、地域とのつながりを深めるための働きかけを行うことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果については、職員で話し合い、一部はすでに改善を済ませている。今回の評価についても、職員会議で話し合った上で、自己評価表を作成している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月に実施した初回の会議では、ホームの概要や施設内見学を行い、まずはホームを知ってもらうことから開始した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故予防の話し合いを行うなど、印西市の担当者とは折に触れて連携をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行のホーム新聞送付以外には、日常の暮らしぶり・小遣いの出納などの定期報告は行っていない。面会に来た家族に職員が声かけをしたり、必要に応じて家族に電話をかけたりはしている。		入居者の日常生活の様子や健康状態、小遣い出納帳の写しなどを、月1回程度のペースで家族に報告することが望まれる。連絡帳の作成を検討中であるため今後が期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満・苦情のくみ取りについて、ホームは特に働きかけを行っていない。		家族が意見・要望を出しやすい雰囲気作りを行い、ホームと家族との交流の機会を増やすことが必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しいホームなので職員の異動や退職はまだ少ないが、代わる場合は、入居者に混乱が起きないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回、職員が主体となってテーマを決め、勉強会を行っている。最近では、「おむつの当て方」「センター方式アセスメント」「ターミナルケア」などの勉強会が実施・予定されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同ホームと関連のある、グループホームじょんから(我孫子市)の管理者とは、月に2回、情報交換の機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	2年前のホーム開設時に入居した方々は、あまり混乱も無くすなりとホームに馴染んだとのことである。今後、新たな入居者を受入れる場合は、様子を見ながら個別に支援して行きたいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者のやれること、やりたいことは自分で行ってもらうようにし、何でも話せる関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式アセスメントを取り入れて入居者の状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	センター方式アセスメントを元に、職員会議で話し合っで個別のケアプラン作成に取り組んでいる。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月毎に目標を立て、評価を行い、更新している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣にある介護老人保健施設・シルバーヴィラ大森と連携し、入居待機中の高齢者や家族の相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状況、家族の希望により、週1回、提携の千葉ニュータウンクリニックを受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在入居中の方が終末期を迎えた場合は、ターミナルケアを行う方針である。法人代表がドクターであり、また近隣の老人保健施設の看護師にも相談できるため、医療面での体制が整っている。ホームの職員達で、ターミナルケアに関する勉強会も行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム新聞に写真を載せる場合は家族の同意を取る等、個人情報の保護は配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者自身がお自分の月目標を立て個別のペースで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなもの、家庭の味を入居時にアセスメントしており、調理に反映している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者本人の希望に合わせて、週2回から3回入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ペン習字、絵手紙、カラオケ、詩吟、等、さまざまなレクリエーション支援をしている。法人代表がホームで弦楽器を演奏していて、大変良い雰囲気である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩にでかけ、庭で日光浴が出来、季節ごとにドライブにでかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路の交通量が激しいため、タッチボタン式の自動ドアにしている。ボタンは壁のやや高い場所に設置している。入居者が玄関に近づくとセンサーでアラームがなる仕組みで、外出には職員が付き添うようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	浴槽に常時水を張っており、備蓄食料等も備えて災害対策している。避難訓練もホーム独自には行っているが、消防署に来てもらったの訓練はまだ行っていない。		消防署立会いのもとで、避難訓練を実施することが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託先で栄養バランスに配慮した献立を作ってくれている。食事量や水分摂取量は記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく、明るい日差しが差し込んでいる。外の緑が、リビング、居室、浴室の窓から見えて心地よい。中庭に置かれたテーブルセットが良い雰囲気をかもし出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、ご家族の希望等を取り入れた居室になっており、個別の対応がなされている。		